



▲えん堤からダム湖と取水口を見学、全貌の大きさに一同唖然

東洋一のロックフィルダムとも称される高瀬ダム、構成する岩の連なりの壮大さと、湛える水が北アルプスの谷を満たす景色を満喫しました。

生活インフラとして欠かせない電気ですが、脱炭素が叫ばれる中、クリーンなエネルギーとして注目を浴びる水力発電所とロックフィルダムを見ることができました。

東部地区環境衛生協議会主催レベルアップ環境講座が7月23日(水)に開催され、23名が参加しました。「電気が生まれる現場を見てみよう」をテーマに、昨年の奈川渡ダム・安曇発電所の見学に続いて、本年は高瀬ダムと新高瀬発電所の視察です。



▲トンネルの先には発電所の巨大地下空間が広がっていました

また、そのダムの水を取り込み発電している新高瀬川発電所も視察しました。バスに乗車したまま長いトンネルを進むと、そこに現れたのは大空洞でした。発電施設のすべてが山の地中にあり、丸ビルがすっぽりと収まるほどという地底の要塞の大きさにびっくり

でした。「電気を生み出す施設の大掛かりな仕事と、それを作り上げた先人達のご苦労に感謝です。また猛暑の下界を忘れ、寒いほどのトンネル内の世界にも感激しました」(今井常雄さん・東町3)との声をいただきました。

現在これらダム・発電施設は一般公開されていません。そんな中で、桜町前町会長の犬月辰男さんにご尽力いただきこの講座を実現させることができました。また、現地では東京電力リニューアブルパワー(株)の皆さまの厚意により、高瀬ダムが抱える土砂堆積問題の解説や工事現場の見学、発電所内部の見学を実現することができました。御両所に御礼申し上げます。ありがとうございました。

夏を感じながら絆を深める「東部(夏)の3大行事」



▶防災フェスティバル

7/27(日)

ラジオ体操&ミニ交通安全講座

8/9(土)

▶東部納涼祭

松本城とわたし

題字 三代澤 東麟

今回の投稿は、東部公民館で女鳥羽俳句会を主宰している降旗牛朗さん(東町3)に、俳句に詠まれてきた松本城を紹介してもらいます。

梅雨晴や松本城の男振り

田中 介城

梅雨の最中に晴れあがることが「梅雨晴」です。そこにすつくと立っている松本城。それを「男振り」と表現しました。黒漆で身を固め、いく分細身の松本城天守だからこそその表現です。白鷺城と呼ばれる姫路城ではこうはいえません。飾り気のない武骨さが松本城の魅力だと教えてくれる句です。

幾世紀城映し来し濠温む

太田 蛇秋

「水温む」という春の季語を堀の水に使っています。文禄三年(1594)に建てられたともいう松本城。現存する城の中で最も古いものの一つとも。堀の水も解け、水面に映る天守閣を見つめて作者は懐古の情にひたります。この城が眼前に在る不思議を思ったにちがいありません。

月の城真暗き裏を持ちにけり

林辺 千尋



煌々たる月の光に浮かぶ黒づくめの天守閣。その姿は端正そのもの。美しさに感じ入った作者はふと裏側は?」と思ったのです。月光の及ばぬ真つ暗な裏側も確かにこの城のもの。作者は封建時代の遺物たる城の過去に思いを馳せたことでしょう。

瑠璃截つて孤高の天守蓮枯るる

細田 高夷

冬晴れの空の瑠璃色をすばつと断ち切ったように天守がひとり聳えている。堀にはまるで刀折れ矢尽きた敗軍兵のように枯蓮が無残な姿をさらしている。ひっそりとした冬の松本城です。太鼓門はおろか黒門もない、天守閣だけがぽつんとあつた頃の、まさに「孤高」というに相応しい姿を、この句は見事に描いています。

雲呼んで雪とす城の鬼瓦

藤岡 筑郎

雲を呼んで雪とする、何がそうする? そう、天守閣の鬼瓦がするのです。鬼瓦は屋根の棟の両端の瓦で、魔除けとして鬼の顔をかたどるのが本来とか。鬼瓦が呪術をもって天気を変えるのでは、と考えた作者。すでに空の一角を雪雲が占めていたのかもしれない。雲呼んで雪とす」の漢文的な調子は力強く、17音全体に隙のない実に堂々たる名句です。

おのづから城に一礼年つまる

倉知 真木子

松本城に対する松本市民の思いをこれほど即直に表した句をほかに知りません。観光客には詠めない句です。「今年ももうすぐ終わります。1年間ありがとうございました。お城に向かつて。お城とともに生活する松本に住み、お城とともに生活

文化の日
城を誇りと
生る町

牛朗

する人の句です。城ある町・松本で俳句を作るしあわせを作者は感じていることでしょう。最後に自作から好きな句を。

石垣の石ひとつ欠く濠の秋

国宝の城ある町のつばくらめ山があり城があり年新たななり鯛焼食ふ天守の鯢に見られつつ友を呼ぶ声して雪の松本城かつて城見えし町かど水草生ふ

写真：松本城アーカイブ 色紙：降旗牛朗

地区の宝が新博物館デビューー 地獄の入り口

十王のいるところ

去る7月5日(土)から9月1日(月)までの約2か月間、松本市立博物館で特別展「地獄の入り口」十王のいるところ」が開催されました。東部地区からは、普段は餌差町放光庵十王堂に祀られている閻魔王坐像や、十王坐像など計12体の仏像が、この企画に合わせ松本市立博物館へ出張展示されました。松本市内はもとより、長野県内各地から集結した閻魔王率いる十王たちの中にあつても圧倒的な存在感と堂々たる風格で来館者を魅了していました。



▲ 庄巻の付まいで来館客を待ち受けます

餌差町十王堂の諸仏保存会的小林崇泰さん(餌差町)は「江戸後期以降、長い間地域の方の協力で今まで保存をしてきました。今回多くの方にお披露目し知っていたので、今後は仏像の知名度を活かした街づくりに取り組みたい」と語りました。

いつまでもお元気で ~敬老の日・敬老行事~

9月15日(月・祝)は敬老の日です。東部地区の各町会でも様々な敬老行事がおこなわれています。

東部地区の高齢化率は34.9%と、松本市全域と比較すると高くなっています。これまで地域を担ってくださった皆様への感謝の気持ちを表すとともに、支え合いで笑顔があふれる東部地区を目指したいものですね。

東部地区の状況

令和7年8月1日現在

地区名	(A) 総人口	(B) 65歳以上人口	(B/A) 高齢化率	(C) 75歳以上人口	(C/A) 後期高齢化率
松本市全域	232,923	67,044	28.8%	40,587	17.4%
東部地区	3,087	1,078	34.9%	688	22.3%